// masthead
麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 ―麻生鳥のさえずり公園―

第41号　2014年5月31日発行　　発行 ： 麻生多摩美の森の会

発行責任者；間野　洋　　　編集者；木村　信夫

平成26年度を迎えて　活動の主な目標

会長　間野 洋

昨年度は当会設立以来12年目の年でしたが、各分科会活動、各種イベント等の開催も事故なく無事終了しました。会員の皆様のご協力に感謝致します。

新年度を迎え４月26日、第12回通常総会が開催されました。役員等の改選時期にあたり、４年間欠員であった副会長１席の補充選出、会計担当の交代、監査役１名の交代、幹事１名の退会に当たり新たに大学生幹事を１名選出し、承認を得ました。今後２年間、この新体制で活動を進めて行きます。

今年度の各分科会の活動、各種イベントについて方向性を以下に述べます。なお新企画があれば、その都度幹事会で検討することとします。

１．分科会活動

１）森づくり分科会：昨年スタートした椎茸栽培は５月18日に「本伏せ」を終了。今後毎年ホダ木を追加していく。原木はコナラだけではなくクヌギも検討する。

ヤマユリ園は、現在12株しか育ってないので、株数を増やす必要があり、今年度準備したい。

２）畑の管理分科会：作付けの種類は昨年度と変更ない予定。里芋の種芋は昨年収穫・貯蔵した三分の二の 100 個が腐って使用できなかった。今年度は上の畑近くに新しい「貯蔵室」を作る必要がある。

３）施設・工作分科会：ヤマユリ園の柵が老朽化しているので早い時期に作り替える。また、刈払い機を１台購入予定。

４）広報分科会：何としてもホームページを立ち上げることが第一目標となる。

２．イベント

１）西生田小学校 総合的学習への協力

①　３年生　森の四季の観察会･･･春の観察会は５月28日に終了。夏・秋・冬の観察会の日程は未定。

②　５年生　森での環境学習･･･日程は未定であるが２日間を予定している。

２）多摩美の森で遊ぶ会（仮）**への協力**：６月、10月、12月、２月の４回を予定。

３）星の観測会への協力：夏（８月）、冬（２月)の２回を予定しているが日程は未定。

４)第14回 植樹祭&収穫祭:11月16日(日)開催決定。内容の詳細は、今後の実行委員会で決定する。

５）花と緑の交流会：11月30日（日）開催決定。会場は多摩区役所。

以上、今年度の活動も楽しく、安全に行いたいと考えていますので、会員の皆様のご協力をお願い致します。

最後になりますが、７月１日（火）に「川崎市制90周年記念式典」が開催され、90周年記念表彰において当会が表彰されることを報告します。

◆ 副会長就任にあたって　井上 正樹

４月26日第12回通常総会の役員改選で副会長に就任した井上正樹です。

間野会長、中谷副会長の補佐役として積極的に取組んでいく所存です。

私は香林寺で毎朝 45 分間体操をしていますが、それを５分間にまとめ、活動日の準備体操に取り入れました。この体操は首から肩・腰・膝・足首と移動しながら、全身の眠った筋肉をほぐしていくものです。

５月 11 日 第 75 回市民健康の森７区交流会（中原区）に中谷副会長と共に出席しました。交流会には、多摩美の森で開催のとき裏方として参加していたので、初めての感じはしませんでした。各区の活動状況、資金状況、助成金の状況等説明があり、区によっていろいろ異なることも分かりました。

また、どの区も高齢者が多く、若い新規会員の参入に苦慮していました。その中でわが麻生区は間野会長の肝入りで大学連携事業に参加して市民活動団体としての広報力向上と大学生との繋がりができていること、またとくに今年初めて大学生１名が幹事になったことを中谷副会長より報告したところ、どよめきが起こり、羨望の眼で見られました。

麻生区周辺には昭和音楽大学、日本映画大学、玉川大学、和光大学、明治大学、専修大学、日本女子大学など、ジャンルの異なる大学生が大勢います。これからの市民健康の森活動を活発にするには、いかに大学生をこの活動に勧誘していくか。また学生にとって地域との連携が有意義なもので、楽しく、活動的になれるよう、まずは大学の先生を巻き込んだ勧誘活動が私の副会長としての使命と思っています。そのためにはFACE BOOKなどで麻生多摩美の森の会の活動報告と勧誘アピールをしていきたいと思い、実行していきます。

◆ 西生田小５年生「環境体験学習」の感想文　中谷 一郎

５年生135名の環境体験学習が、麻生区市民健康の森で、10月15日（火）、17日（木）に各日２クラスずつで、①暮らしに役立つ植物たちの観察、②樹木の二酸化炭素吸着量の測定の２項目で実施されました。その時の４クラス全員の素晴らしい感想文が届きました.紙面の関係上、２人の感想を掲載します。

●この間は､木のことや､しぜんのことなど、いろいろなことを教えていただきありがとうございました。ぼくは、このことを勉強する前は木のことや、二酸化炭素のことなどにあまり興味がありませんでした。しかしまず木は何に変身しているかを知り､タンスやお茶、紅茶さらには千円札にまで変身していることが分りました。次の二酸化炭素の量をそく定することでは、木がどれだけ二酸化炭素をすっているかを知りました。今回の勉強をして、ぼくは、木は人間にとつてどれだけ大切なのか分りわかりました。最近日本の森林がへっているので、僕もできることがあったら、森林をまもりたいです。　Ｋ・Ｅ君

●こないだは、多摩美の森の木の名前や木の計り方などを教えてくれてありがとうございました。木は二酸化炭素を吸って酸素を出してくれるのを知って改めて自然の大切さを感じました。９月に行った八ヶ岳には、川崎にはない木が植えてあったので、それぞれの環境にあわせて、働いているんじゃないかとおもいます。

木にはたくさんの種類があります。それぞれの良いところを利用して、昔の人は物を作ったりする、知識はすごいと思いました。

私は、多摩美の森にある木の種類の多さにおどろきました。こんなに、木が多く植えられるのは、森を守る活動をしているからだと思うので、これからも自然を大切にしていきたいです。　Ｍ・Ｋさん

■シイタケ栽培に挑戦

森づくり分科会　中村 浩

昨年の 12 月にコナラの木を伐採し、3月にシイタケ菌の接種を行った。順調に行けば、来年の秋にはシイタケの収穫が期待できる。

なぜ、シイタケ栽培なのか？ 昔は里山を人が利用することで雑木林が整備され生き物の多様性が図られてきた。今では憩いの場としての利用が主体であるため、人為的に整備しなければこの環境は維持されない。シイタケ栽培を継続することで、毎年木（コナラ、クヌギ類）を伐採する。その切り株から新しい芽が出て木々の若返りを図ることができる。そのうえ、ご褒美として秋と春にシイタケの収穫が期待できる。収穫したシイタケの一部は、毎年 11 月開催の“植樹祭＆収穫祭”に出品でできればと思っています。

＜シイタケ栽培プログラム＞

- 11・12 月：原木（コナラ・クヌギなど）の伐採・乾燥
- ２・３月：玉切り・植菌・仮伏せ
- ５月：本伏せ
- ７～９月：栽培場所等の整備
- 秋・春：収穫（２夏経過後の秋から）

自分で栽培したい方・シイタケを食べたい方、森の会で一緒に活動してみませんか。

■アズマネザサの藪の手入れ

勝田 政吾

この間、麻生区市民健康の森の中でも管理が比較的しにくい「鶯の宿」＝アズマネザサ植生の保全区域の手入れに取り組んでいます。この笹藪ゾーンは南に向かった緩やかな傾斜ですが、その南端部、里芋畑と接する一帯は傾斜がややきつく、その傾斜に沿うように笹の倒れ方が著しく、何とかしなければという思いに駆られていました。

昨年、冬場に入ってから伊丹さんはじめ数人で、笹を覆う蔓を除去して笹を起こすなど数回の手入れを行ってきました（**写真**）。しかし放置期間が長かったため倒れて朽ちた笹の累積量は大変なもので、これを藪の外へ引きずり出す作業だけでも先の見えぬところへ、２度の大雪でますます押し倒され折られた株が増え、作業は進まない現状です。

しかし、作業期間は鶯の鳴き始める２月初旬までと思っていたところ、手作業で静かに行い、作業範囲を南端から 10m 位と区切れば鶯を脅かすことはないようで、５月一杯は続けられそうです。一方、夏から秋には蜂などの心配もあるので、できるところまでやってあとはまた冬になります。この区域は当森の看板のようなところなので、皆で根気よく整備に取り組んでいきたいと思います。

■のらぼうとレンゲの報告

畑の管理分科会　中谷一郎

のらぼうは、2012 年「菅のらぼう保存会」高橋孝次会長のご好意で、苗を分けていただき、11 月末に苗を定植し、2013 年３月に若菜・花芽が食べられるようになり、おひたしにして、森の会 10 周年記念誌の報告会でも味わっていただき、５～６回は採れました、その後、花が咲き６月末に種を採りました。

今回は、本来なら播種・育苗→定植が良いのですが、13 年 10 月上旬に直播きし、間引きで株間を広げていきました。２回の大雪では心配しましたが、負けずに育ち、試食では大変新鮮でおいしく、森の作業後の食事会でもいただきました。５月中旬には黄色い花が咲き乱れ、里山の風情いっぱいです。５月下旬の西生田小３年生の春の観察会では、子供たちに見て貰えると思います。７月頃にはまた種を採って、親から子へ、子から孫へと引き継いで行きたいと思います。

レンゲは昨年は雑草に阻まれて生育が悪かったので、本年は畝を作りスジ播きにし、畑の草取りを何回かしたので、雑草に負けず成長して花を咲かせています。

●チェーンソーの安全作業　木村 信夫

チェーンソーはむき出しの刃が高速回転し、本人にも周りの人にも危険を伴う機械です。使用者および補助作業者は取扱説明書で使用方法や安全の注意をよく読んで下さい。ここでは、小生の経験からポイントを整理します。

①服装はヘルメット・保護メガネ・手袋・長袖は必須。安全靴（先が固い）が望ましい。

②燃料とチェーンオイルは同時になくなるので、必ず両方を満タンにしてから使う。

③始動は、石などなく刃の先が地面に当たらない平らな所で、人を遠ざけて。左手で前ハンドルを握り、右足の先を後ハンドルの底面に入れて機械をよく固定させて、スタータを引く。

④移動するときは必ずエンジンを停止。かけたまま歩いて、つまずいたりチェーンが何かに当ったりして跳ね返り怪我をする事故が多い。

⑤切断作業は必ず両手（左手を前ハンドル、右手を後ろハンドル）で持って行う。少し遠いところを切ろうと片手で伸ばして切るのは極めて危険。また、刃の先端部で切ると跳ね返り（キックバック）が起こるので、中央部を使用。

⑥足場のしっかりしたところで作業。脚立に乗って切るなどは厳禁。切断する木を良く固定。

⑦他の人は３ｍ以上離れる。補助作業は、お互いの動作・居場所を確認し合いながら行なう。

⑧切倒し作業は、倒す方向、退避のコースとタイミングなどを全員に充分確認して行う。

●藤棚の改装なる　会長　間野 洋

２月 15 日の豪雪で崩落した藤棚の改装工事は、５月 17 日に始まり５月 23 日に終了しました。４本の支柱と５本の梁には防腐処理された杉材が、ノダフジを支える竹格子には 40 本の女竹が使用されています。約３ヶ月ぶりに市民の憩いの場が復活しました（**写真**）。早期に改装していただいた麻生区道路公園センターの担当者の皆様に感謝致します。

●今後の活動予定　副会長 中谷 一郎

第12回通常総会を４月26日に無事完了し、2014年度初めての会報です、今年は役員改正で新役員に若い幹事が入りましたので新風が吹き込みます。全員で気持を新たにし、森の活動を行い、自身の専門知識も高め、楽しみ、無理をせず、皆んなでゆっくりと取り組み、汗を流したいと思います。

５月２８日（水）西生田小３年生、春の観察会
６月　７日（土）幹事会、里芋畑の土寄せ、清掃
６月１５日（日）東斜面の下草刈り、草刈り
７月　５日（土）里芋畑の除草、土寄せ、散水
７月２０日（日）畑の手入れ、散水、草刈り
７月２５日（金）里山フォーラム 麻生里山こどもクラブ（全５回）開始、「からむしで作って遊ぼう」（予定）参加
８月　２日（土）畑の追肥、樹木の手入れ、清掃。夜、オーロラ天文台主催 夏の天体観測（予定）
８月１７日（日）畑の草取り、里芋畑の散水
９月　６日（土）幹事会、大径樹の伐採体験 公園緑地協会、座学 明治大学倉本教授
９月２１日（日）草刈り、畑の整備、清掃

この間補助作業日は第２、第４水曜日です。
６月～９月の作業時間は９～11 時です。

★会員募集中です　一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費 1,000 円。

●麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/0000028128.html

◆皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

＜問合せ・連絡先＞
間野　洋　044-966-7233
mano-h@jcom.home.ne.jp
木村信夫　044-954-7855
kimura-yatsu@nifty.com